

令和6年度 りんでん幼稚園自己評価結果公表シート

1 本園の教育目標

『仏教保育』

仏教保育を通して、報恩と感謝の心を育み、明るく素直で、人の話を集中して聞くことができる態度の育成に努めます。

本園では、めざす幼児像として次の項目をあげる

- ① ありがとう ごめんなさい が素直に言える子ども
- ② 友達とのつながりを理解し、思いやりのある子ども
- ③ ひとつのことを続けていくことで楽しみを見つけられる子ども

『心の教育』

「幼児期にしっかりと愛情こめて育てる事により小学校で根付き中学校で花が咲く」

いかに幼児期が大切であるか幼稚園生活を通して、ほとけ様の心【心の教育】を育てています。

- ①「すみません」という反省の心
- ②「はい」という素直な心
- ③「おかげさまで」という謙譲な心
- ④「私がします」という奉仕の心
- ⑤「ありがとう」という感謝の心

『音体教育（鼓笛を通して）』

鼓笛とは、音楽・体育をもとにし「生きる力」「リズム感」「感性」を培っていく教育です。

そのために本園では、鼓笛を通して、「美しい姿勢」・「挨拶」・「けじめのつけられる生活」（遊ぶ時は遊び、頑張る時は頑張る）が身につく、協調性、集中力、忍耐力を養い、日々の練習を積み重ねて、努力をし、最後まであきらめず自信をもち、子ども達が【自分で考えて行動できる】ように取り組んでいます。

鼓笛は一人ではなく、みんなで力を合わせないとできません。悔しい気持ち嬉しい気持ちがわかる子ども達だからこそ、お友達に思いやりをもって、力を合わせることの大切さを知ることができます。

ひとつのことを頑張るということは、この年齢ではとても大変なことです。「できない！」と悔しい気持ちになったり、また悲しい気持ちになったりする時もあります。

だからこそ、「できた！！」「やった！！」という喜びを大切にして、『できた！』喜びや達成感をお友達や職員と共に共感することで自信へとつながります。

最後までやりとげられる力を、鼓笛マーチングを通して体得することができ、この力は将来子ども達の【生きる力】となり、誇りをもって生きていく力になると確信しています。

2 本年度の重点的な目標・計画

全職員が共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるように教育内容の改善に取り組んでいく。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

課題	具体的な取り組み方法
教育課程 ① 仏教の行事や週例参拝を通して、心の教育を育む。 ② 友達との関わりを通して、協力することや達成感を味わう。 ③ 自由に表現する楽しさを感じる。	・ 毎月の徳目を子ども達が理解出来るように伝えた。 ・ 花まつり、成道会、涅槃会を通して、仏教の教えを学び、感謝の気持ちや命の大切さを伝えた。 ・ 日々、活動前に瞑想の時間を作ることで、気持ちを落ち着かせ、切り替えができるようにした。 ・ 年少児のお店屋さんごっこでは、店員さんになりきって遊ぶことで子ども達の想像力を高めることができた。 ・ 年中児と年長児は、鼓笛練習を通して、一つのことを全員で最後まで頑張る経験ができた。 ・ 年長児は、ドッチボール大会に向けて、クラスが団結し、勝敗にこだわりをもって楽しんだ。 ・ 作品展では、完成に向け役割を分担し、友達と協力し合いながら取り組み、物を作り上げる楽しさや喜びを体験させることができた。 ・ 折り紙をしたり、ルールのあるゲームで遊んだり、鼓笛を教え合ったりと、どの学年も異年齢児と関わる機会を設けた。 ・ 年少児全員で、年中児に合唱を披露することで、協同性や達成感を感じさせることができた。 ・ 廃材遊びでは、テーマを決めず、子ども達が使いたい材料や道具を選び、自由に表現出来る環境を整えた。 ・ 年中児の絵画では、園庭にある木を観察して、あらゆる形の木のイメージを持ち、絵の具を使って、思い思いの木を表現することを楽しんだ。 ・ 年長児の絵画では、手に絵の具を付け、大きな模造紙に木を表現したことで、絵の具の感触を楽しみながら、全員で協力して1つの物を作り上げていく喜びを体験させることができた。

④ 自然や生き物との関わりを楽しむ。	・ トマトやペチュニア、オクラなどを育て、当番制で水やりをしながら、成長する過程を知り、植物への興味を持たせることができた。 ・ 年少児は、育てたトマトを収穫し、給食の時間に皆で食べたりして、食育に取り組んだ。 ・ 動物村では、様々な動物に触れ合い、餌やりの経験をし、生き物の温もりに触れ、生き物や命を大切にしようとする気持ちを育んだ。 ・ 年長児は、プラネタリウム見学に行き、星の名前や七夕の話を聞き、天体への興味を持つきっかけとなった。
研修・園内研修の充実	・ 月に一度の園内研修では、様々な題材をテーマに研修に取り組むことが出来、職員間のコミュニケーションの場にもなった。 ・ 絵画やパラバルーンの研修では、実際に職員が体験し、子どもの目線になって取り組み、保育に活かすことができた。 ・ 外部講師による、研修を受け、今までにない視点からの新たな知識を得ることができた。
幼稚園と家庭、地域との連携	・ 外部の専門機関と連携を取り、子どもの情報を共有することで、より子ども達が過ごしやすい環境を整えることに努めた。 ・ 年に2回の懇談日を設け、園での様子と家庭での様子を共有し、保護者の悩みや不安を聞き、子どもの成長を一緒に考えた。 ・ 保育参観では、製作や体操などを保護者の方と一緒に体験し、子ども達の成長を感じてもらえる時間になった。 ・ 年長児のお別れ会では、保護者、子ども達、保育者で触れ合いゲームをしてコミュニケーションを図ることができた。 ・ 近隣の中学校の職業体験行事を通して、地域との交流をもつことができた。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教育課程の更なる見直し

- ・ 仏教行事や徳目を通して、仏教の教えを学ぶことができた。
- ・ 異年齢児との関わりを通して、次年度への期待をもつ姿が見られたり、年少児に優しく接する気持ちを育んだりすることができた。
- ・ 保育内容を見直したことで、子ども一人ひとりと関わる時間が増えて、子ども達が落ち着いて日々の保育に取り組むことができた。
- ・ 様々な行事を通して、達成感や協調性、思いやりの心を育むことができた。

研修・園内研修の充実

- ・ 製作・運動・保育技術など様々な題材についての研修に取り組み、職員全員で意見を出し合い、共有し、新たな保育観を広げることができた。
- ・ 外部講師を招き、専門的な知識や保育方法を学ぶことで、日々の保育に取り入れることができた。

幼稚園と家庭との連携の充実

- ・ 参観や行事等で、保護者と交流する機会を十分にとることができた。
- ・ 普段の様子を電話や対面で伝え、共有し、保護者と連携をとることができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	令和6年度 課題点・具体的な取り組み方法
教育課程の確認・見直し	・ 年少児は天候の影響で、プールの実施が一回になってしまった為、プール以外で水に触れられる機会を作っていく。 ・ 食べ物の成分表を掲示するだけになってしまったので、食育として保育の中で取り組む。
外部研修・園内研修の充実	・ 園内研修では、様々なテーマに取り組むことができたが、職員それぞれが持っている悩みを相談し、アドバイスを貰う機会が少なかった為、今後の研修で取り入れていく。 ・ 園外での研修の資料や学んだ情報を、職員間で共有し、参加していない職員でも保育に取り入れられるようにする。 ・ 外部の専門講師による研修の場をつくり、新たな知識を得る機会を増やす。
幼稚園と家庭との連携	・ 保護者とのコミュニケーションを密に取り、保護者と保育者との信頼関係を作り、保護者の不安が少しでも減るように心掛ける。 ・ 参観や行事だけでなく、普段の様子を動画配信して、園での様子を伝える機会を増やしていく。

6 今後取り組むべき課題（学校評価委員からの意見）

●教育課程の確認・見直し

- ・日々、様々な場面で参観させていただく中で、長年にわたる継続的な仏教精神に基づく幼稚園教育をされていることに感動しています。コロナが過ぎて、日常が戻ったように見えますが、子どもたちや私たちの取り巻く環境はすごいスピードで、自動化、IT化が進行しており、子どもたちも知らず知らずのうちに希薄な関係の中に置かれているのを感じます。だからこそ、日々の生活の中で、心の教育が大切だと感じています。
- ・仏教行事を大切にされており、教えから来る感謝の気持ちや命の大切さを日常的に伝えられている。各年齢の子ども達の発達に応じた保育活動が展開されており、「鼓笛」は貴園の大きな教育であり、子ども達の成長がしっかりとあらわれているのではないかと感じます。
- ・音体教育だけではなく、造形あそびや自然とのかかわり等、5 領域を意識し、しっかりと盛り込んだ教育課程となっている。
- ・夏の暑い期間の行事は、園児さんや教職員の皆様の健康を考えると、時間帯や場所等を見直した方が良いのではないかと思います。
- ・降園時に園外で出会っても、挨拶をしてくれる園児が多く、「心の教育を育む」がキチンとできていると感じます。
- ・作品展では園児たちが役割を分担し、協力して大きな作品に取り組んだ成果を見せて頂き、感心しました。
- ・見直さなければならない点は、特には無いと思います。
- ・毎年、食育の領域を幅広く取り入れられている事、とても喜ばしい事と思っています。「生きる」をテーマに園児達が興味をもつよう指導なさっている事、有りがたく思います。成分表も大切ですが、園児達が直接、身近に感じるよう当日の給食献立の中から実物材料の成分を知らせていくのも直接的でいいかも・・・とったりします。
- ・園外学習で田植え、稲かりの見学、野菜栽培の畑等を見学されたり、農家の方達の話聞くのも良い経験になるのではないのでしょうか？それを受けて、一人一鉢（ミニトマト他）をやってみるのも・・・。

●研修・園内研修の充実

- ・外部講師を招いての研修をされているとのこと、専門的知識が必要な場面で、外部の意見を取り入れるのはとても大切だと思います。具体的な研修内容が書かれていないのでわかりませんが、より充実した研修になることを期待しています。
- ・昨年度かかわった学校で、小学1年生から LGBTQ に関して、自分の性に違和感のある児童が入学するにあたり、この児童を受け入れるために学校や地域全体で取り組まれた学校があります。これから幼稚園でも違和感を持つ児童が入ってくる可能性はあります。人権の取り組みとして考えていく必要があると思います。市の関係機関でも研修をしてくれまので、利用されてもいいと思います。
- ・多忙な中での定期的な月1回の園内研修は、職員間の呼吸を相互に感じられる大切な機会であり、大変有意義である。
- ・ワークショップ型・体験型の研修を行なうことで、子どもの気持ちや行動を想像することができ、日々の活動に大いに活かされたのではないかと感じます。

- ・外部から講師を招いての研修は、新たな知識を得ることができ、保育力の向上にプラスとなった。
- ・研修会の具体的な内容を教えてもらいたいです。
- ・先生方が実際に体験され、子どもの目線になって取り組まれたことは、とても有意義な事だと思います。本年度も継続してください。
- ・「ごっこ遊び」から入るのは興味から成果に直接つながる・・・と感じています。家庭に於いて母親と共に買い物に行った処で、主体性としては薄いと思います。園児達が周りをみて、「協力」する事を感じる一貫として教え合う、友達のお手伝いをする。すごく意義のある行為だと感じます。
- ・生活発表会に参加して、舞台の上で友達との間隔を注意し合ったり、皆と同じ動作ができない友達にさりげなく教える様子を拝見しました。すごくほほえましく双方にとって有意義な場面だと感じました。
- ・作品展のいつものりっぱに仕上がった絵画、工作ができ上がったものだけでなく、作り上げていく課程の参観をさせていただきたいです。(導入(絵本選びとか読み聞かせ)実践に移行する際の園児の反応や先生方の引き出しなど)

●幼稚園と家庭の連携

- ・発表会の時の保護者会の方々のサポートを見るとよく連携が取れているなと感じます。小学校でもコロナ以降、家庭訪問がなくなっている学校が増え、逆に5月に個人懇談会をする学校が増えています。保護者も多様化していますので、子どもたちのちょっとした変化にアンテナを高くして取り組まれていると思いますが、これからも続けて取り組んでください。
- ・保護者と年2回の懇談は、保護者と子どもについての共通理解ができ、重要な機会であったのではないかと。親子や保育者と共に、体を動かしてゲーム等のレクリエーションは、自然と会話がはずみ、つながりづくりには大変よいと思う。参観での親子で一緒に活動することは、何より子どもがよろこび、普段なかなか関われない親にとってもうれしいことだと思う。
- ・家庭との連携は、たいへん丁寧かつ親身になって対応して頂いていると思います。
- ・動画配信など、新しいツールを積極的に活用される事は、良いことだと思います。
- ・保護者とのコミュニケーションを密にとられている様子、有りがたく思います。保護者との信頼関係を作るには最大の取り組みですものね。年々むずかしくなっている傾向はありませんか。小学校でも最近の傾向として手がかかる依頼心の強い子も多いかと感じることがあります。

※なかなか年2回の懇談日でおいつかない処もあるかと・・・。園の様子を知らせたり(ホームページ)、家庭の様子を伺うには、保護者への悩みや、不安を聞きとれない(充分に)部分もあるかも。大切に取り組まれておられる保護者参観などの機会にも話し合いの時間がとれればいいですね。

●その他の意見や感想

・生活発表会は、今年は会場を変更されて実施されたようですが、園とは異なる場所で行なうことは、準備等で大変な労力と気づかいが推察され、なかなかできるものではないと感心しています。

・子ども達もいつもとはちがう場所での発表となる中で、がんばる姿がすばらしいです。ただ一点だけ、今年度も、内容は男女別であったり、一律的な動きのダンスだったりだったのでしょくか？子ども達の自由な表現を引き出す発表会であればと願っています。

・先生方の一人ひとりの業務負担が多く、働き方改革の問題や園児さんの健康管理や安全管理等、課題が山積みですが、そんな中、教育内容や行事等さまざまな改革を与儀なくされていますが、りんでん幼稚園のこれまでの伝統を大切に園児さんのために取り組んで頂きたいと思います。また、先生方が心身ともに健康で、元気に明るく優しい対応が園児さんの成長に最も大切だと考えます。よろしくお願いします。

・地域連携として近くの中学校の職場体験行事は例年あって、定着してきているようですが、保幼小の連携の一貫として、幼稚園の年長組が小学校1年の教室訪問行事はありますが、できれば、現1年の児童が幼稚園訪問の機会を得て、訪ね、折り紙やお絵かき、ドッチボールなど楽しく伸び伸びと数時間楽しむ機会があってもいいですね。

（幼稚園教育が生かされ、1年たったら、こんな事が出来るという成長ぶりを知れる良い機会になればと）